

やせぼた
八畝畑遺跡

所在地 岡崎市正名町吹野、八畝畑
(北緯34度53分28秒 東経137度7分51秒)

調査理由 道路改良工事(交付金)(主)岡崎碧南線

調査期間 平成23年5月～10月

調査面積 3,500㎡

担当者 松田 訓



調査地点(1/2.5万「西尾・幸田」)

調査の経過 調査は、愛知県建設部による県道岡崎碧南線改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成25年5月から10月にかけて実施した。調査区は二分割し、13A区・B区として実施した。調査面積は、3,500㎡である。

立地と環境 遺跡は岡崎市南西部に所在し、矢作川及びその支流によって形成された氾濫原の沖積地に立地する。調査地点の南側約1.5kmの位置には、古墳時代後期から終末期の円墳を主体とした羽角山古墳群が丘陵上に展開する。

調査の概要 今回の調査では、第1面において古代の竪穴建物、掘立柱建物、中世の井戸等が確認され、第2面においては弥生時代後期から古墳時代前期と思われる竪穴建物、土坑、遺物集積、自然流路等が確認された。

第1面では、調査地点全体で遺構、遺物が検出されており、この中で竪穴建物跡は南側にて6基の平面プランを検出した。いずれも後世の削平などにより基底部分のみが残存しており、7～8世紀と思われる須恵器等がわずかに含まれていて、柱穴は明確ではなかった。北側にカマドと思われる焼土、袖の基底部分を確認できるものも検出されたが、いずれも残存部分は浅く、壁溝のみ残存し壁は消失しているものも見られた。井戸は調査区中央から南側にて6基検出され、このうち4基は曲げ物を井戸枠として利用している状況が確認できた。時期の判定できる遺物が出土しているものは少ないが、山茶碗が出土しているものが含まれた。これらの状況から、古代、中世にはこの地点にて集落が営まれていたことが想定される。またこの他にも、同じ面にて規則的な配列、方向が観察できる小穴のまとまりが見られ、掘立柱建物跡、柵列が想定された。

第2面では、調査地点の北側にて自然流路が蛇行している状況が確認でき、この河川に向かう落ち際には、古墳時代前期の土器が集中して出土する地点が確認された。この地点の土層は、北側に向かって低くなる斜面に細かく重なる状況が観察でき、洪水性の堆積が繰り返されたことが考えられる。遺物の周囲では、掘削された痕跡が確認できないことから、自然流路に向かって地形が落ち始める地点を選んで土器が廃棄されたものと考えられる。この遺物集中部では、遺存度の良好な壺、甕、高杯などが多く、短期間に集中して一定の場所に廃棄された要因が注目される。

まとめ 八畝畑遺跡に近接する周辺地域では、弥生時代から古墳時代、古代などに該当する明確な集落遺跡が確認されていない。先に触れた羽角山古墳群は6世紀中葉から7世紀後葉という時期が想定された古墳群であるが、これらの造営母体となった集落、集団も現時点では未解明である。八畝畑遺跡の調査で確認された居住域は、羽角山古墳群との関連性も含めて、どのように位置づけるべきなのかが重要と思われる。そのために、今後の調査資料の増加も視野に入れながら、調査成果の評価を行うことが必要であろう。(松田 訓)



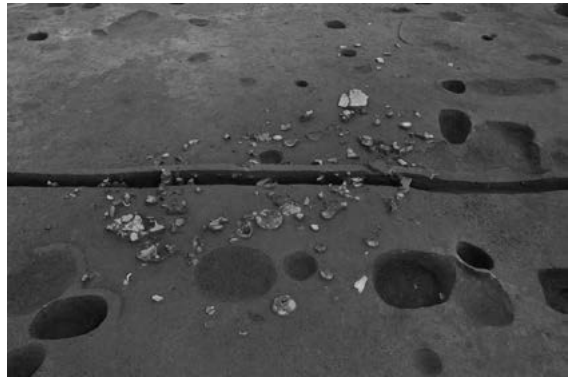
2100SE 断ち割り



291SB



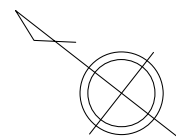
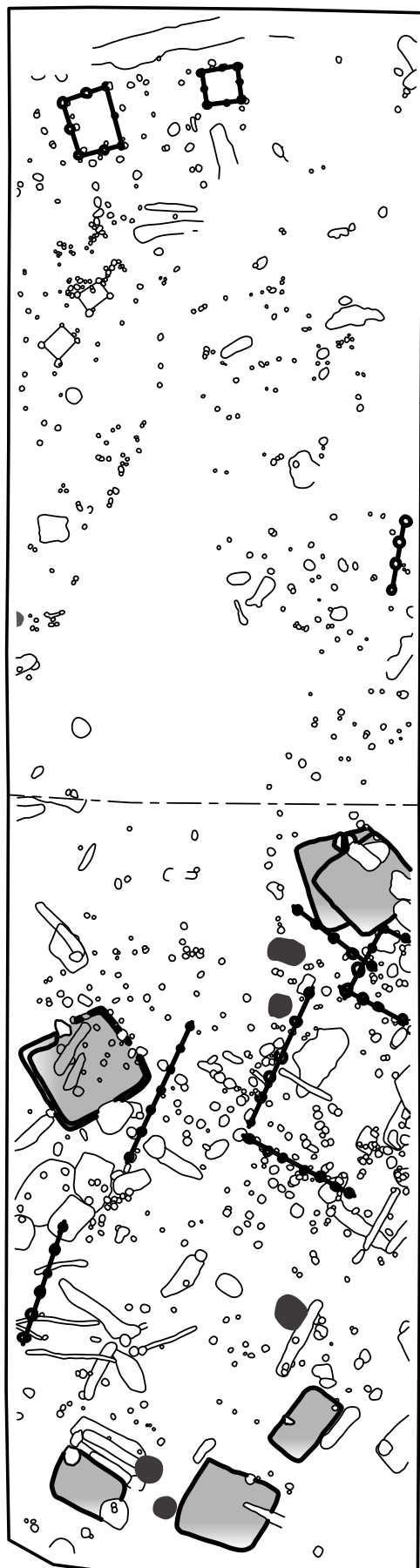
2070・2080SI 完掘



3070SU 出土状況



13B 区遠景 (北から)



古代・中世

竪穴建物

掘立柱建物

柵列

井戸



図1 調査区第1面遺構図 (1:500)

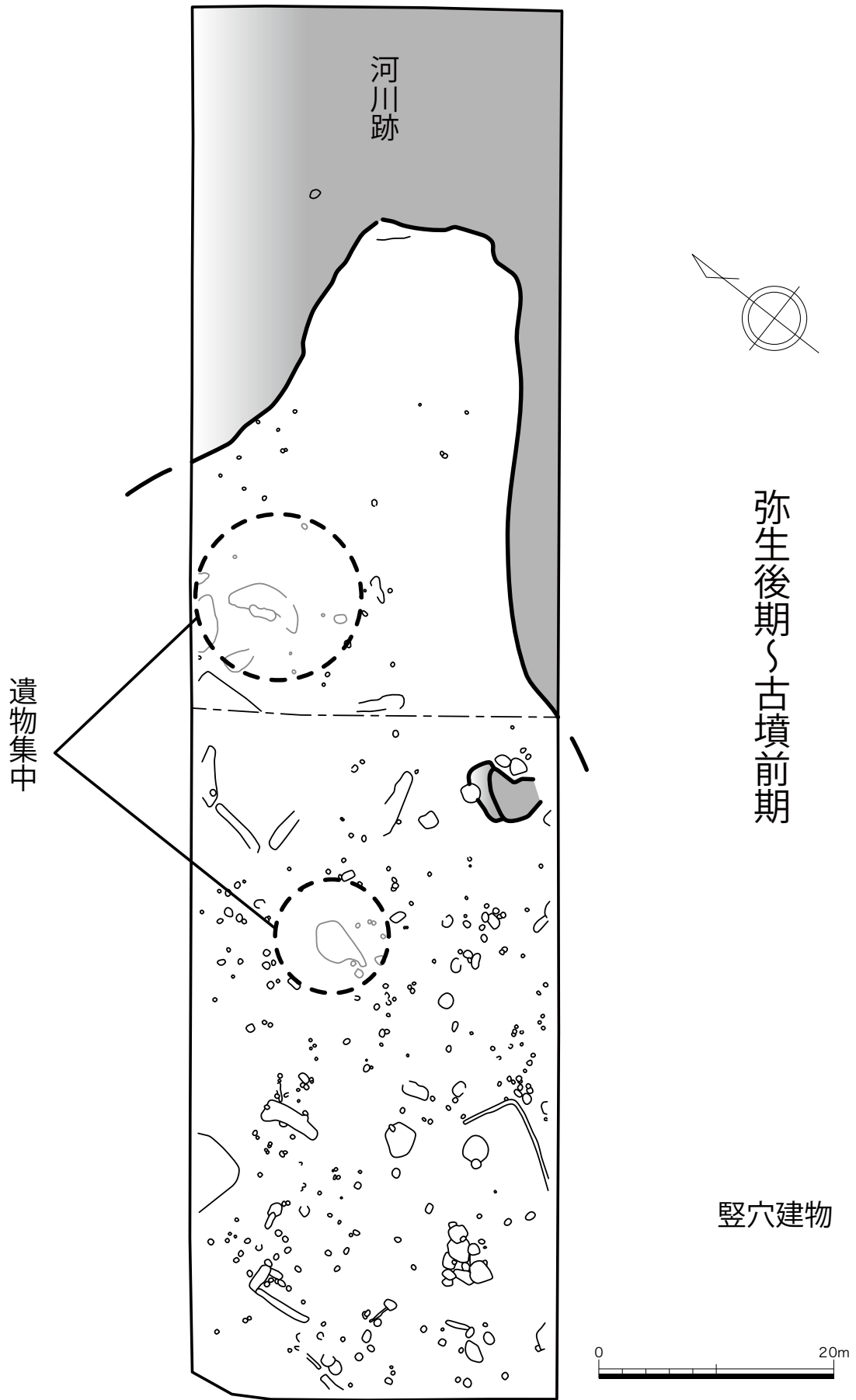


図2 調査区第2面遺構図 (1:500)